

## 先生たちの言葉で

### 私たちは将来と向き合った

—— 大学生の皆さんは、どのように考えて、今の進路を選ばれたのでしょうか。

**吉田** 私は、小学生の頃から産科医に憧れていて、中学受験をして入った中学校・高校では、医学科志望者が多い環境にいました。ただ、高校1年生の途中で人間関係がうまくいかなくなり、勉強をする意味も分からなくなってしまうと、それとともに成績も下がっていきました。

勉強に身が入らないまま3年生になり、進路に悩む私に、「ちょっと話そうか」と声をかけてくれたのが担任の先生です。それから週1回、先生は面談を通して、私が何に関心があるのかを一緒に整理してくれました。自分の思いを何度も話すうちに、元々興味があった「赤ちゃん」と「お母さん」の何に関心があるのかを考え、その根本には「人の生活」に意識が向いていることが見えてきました。ただ、それでも、なりたい職業が明確に言えなかった私に、先生は「仕事は自分でつくれるよ。今ある職業からではなく、何を学びた

## 座談会

# 自分のあり方・生き方を 考え続ける力を高校時代に育む

予測が難しいと言われる社会を生きていく生徒たちにとって、

高校時代に考える進路選択は、どうあるべきなのか。

そして、高校現場にはどのような進路指導が求められるのか。

高校時代、迷いながら自分の進路と向き合った学生4人と、高校教師、大学教員が語り合った。



いのかで進路を決めればいいんじゃないかな」と言われました。それで、人やその生活を支える学問が学べる今の学科を選びました。

**齊藤** 僕は、高校でサッカー部に入部しましたが、強豪校のために毎日の練習が厳しく、自分の将来を真剣に考え、社会について知る余裕がありませんでした。そこで、1年生の途中で退部して、脳科学や医療など、

**立教大学経営学部教授**  
**中原 淳**  
なかほら・じゅん



立教大学経営学部ビジネスリーダーシッププログラム主査。東京大学教育学部卒業、大阪大学大学院人間科学研究所、メディア教育開発センター（現・放送大学）、アメリカ・マサチューセッツ工科大学客員研究員、東京大学准教授等を経て、2018年度から現職。専門は、人材開発・組織開発。著書に『アクティブ・ラーナーを育てる高校』（学事出版）等。

**福岡県立城南高校校長**  
**和田美千代**  
わた・みちよ



教職歴36年。同校に赴任して1年目。城南高校に教諭として勤務していた時、「ドリカムプラン」の立ち上げに尽力。その後、教頭としても同校に勤務し、今回が3回目の赴任となる。

興味を持った講演会に片っ端から参加しました。それでも社会の構造をよく理解できず、漠然と、県外の難関大学に進学したら、いろいろな人に出会えて、社会のことがよく分かるのではないかと思うようになりました。

そんなことを3年次に担任だった先生に話すと、「どんな大学に行けば、自分が満足できるように時間を



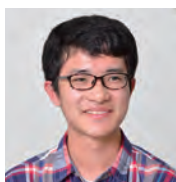
お茶の水女子大学  
文教育学部1年  
**宇井瑞希**  
うい・みずき  
東京都・私立かえつ有明中  
高校卒業。



大阪市立大学  
生活科学部人間福祉学科3年  
**吉田梅乃**  
よしだ・うめの  
富山県・私立片山学園中学  
校・高校卒業。



広島市立大学  
国際学部1年  
**齊藤秀太**  
さいとう・しゅうた  
広島県立広島観音高校卒業。



九州大学  
共創学部1年  
**鬼塚浩明**  
おにつか・ひろあき  
福岡県立福岡高校卒業。

充てて、研究を深められると思う？」と問いかけられました。改めて考えると、地元の広島であれば、知人から人や企業を紹介してもらいやすく、通学やアルバイトなどを最小限にして研究に時間を充てることができると気づき、広島の大学に進学しました。

**鬼塚** 僕は、高校3年間で、やりたかったことに何でもチャレンジしてきました。外国人と交流したいと思ったら国際交流事業にボランティアスタッフとして参加したり、生物部で菌の研究が面白くなってめり込んだら、その成果が認められて九州大会に出場したりしました。

でも、3年生になっていざ進路を選ぶ時に、関心の幅が広すぎて、学びたいことを1つに絞り切れませんでした。そうした僕に、「今ある学部では、鬼塚くんが興味のあるすべてののことに取り組むのは難しそうだから、新しくできるこの学部はどう？」と担任の先生が紹介してくれたのが、その年に新設された、現在通っている学部でした。調べてみると、1つのことを研究するというよりも、自身の関心を広げたり深めたりすることができそうな学部だった

ので、そこに入って、学びながら将来を考えようと決めました。

**教師が社会の変化を肯定的に捉えるマインドを持つ**

**宇井** 1年生の時、「過去・現在・未来」について自分の思いや考えを自由に書くという授業がありました。私は、「過去」と「現在」はすんなり書けましたが、「未来」の枠で書きたいことが思い浮かばず、手が止まってしまいました。それまでは、よい点数を取ると周りから褒められてから勉強を頑張っていました。が、それだけでは未来につながらないのだと感じました。「未来」を考えていく中で、自分は親の仕事や教師など、教えるほどしか職業を知らないと感じ、学校の講演やワークショップに参加するようになりました。環境や農業など、様々な分野を知る中で、一番強くひかれたのが「未来の教育を考える」ワークショップでした。そこで志望学部は、教育を学べる学部に決めました。ただ、教育は社会の一員となる人材を育てる学問なので、人や社会にかかわる領域を幅広く学んだ方がいいと

考え、いろいろな大学を調べた結果、現在通っている学部を選びました。

**和田** こうして4人のお話を聞いてみると、生徒の悩みを感じ取り、問いを投げかけ、本当にしたいことは何かを考えさせ続けようとしています。先生方の指導が見えるようです。

4人の先生方の共通点は、変化する社会を肯定的に捉えていることだと思えます。教師がそういったマインドを持つことで、生徒が自分の人生を前向きに考えられるような支援ができるのだと感じました。

**中原** 「変化を楽しむ心」は、とても重要です。ここ数年、AIの代替によってなくなってしまう職業のことが、よく語られるようになりました。しかし、AIに代替するとしても費用がかかりますし、代替に伴う新たな仕事が発生するとも考えられます（図1）。OECDのレポートによると、AIによって自動化するリスクが高い仕事は10%以下だとされています（\*1）。日本は少子高齢社会で人手不足の状況が続きますから、その問題解決のために、AIに仕事をしてもらった方がよいという見方もあるはずで、社会の変化を前向きに捉え、自分の頭で考えて、自分

で行動することができれば、予測しにくい社会になるからといって、心配することは何もないでしょう。

### やりがい、社会的価値、経済的価値から進路を考える

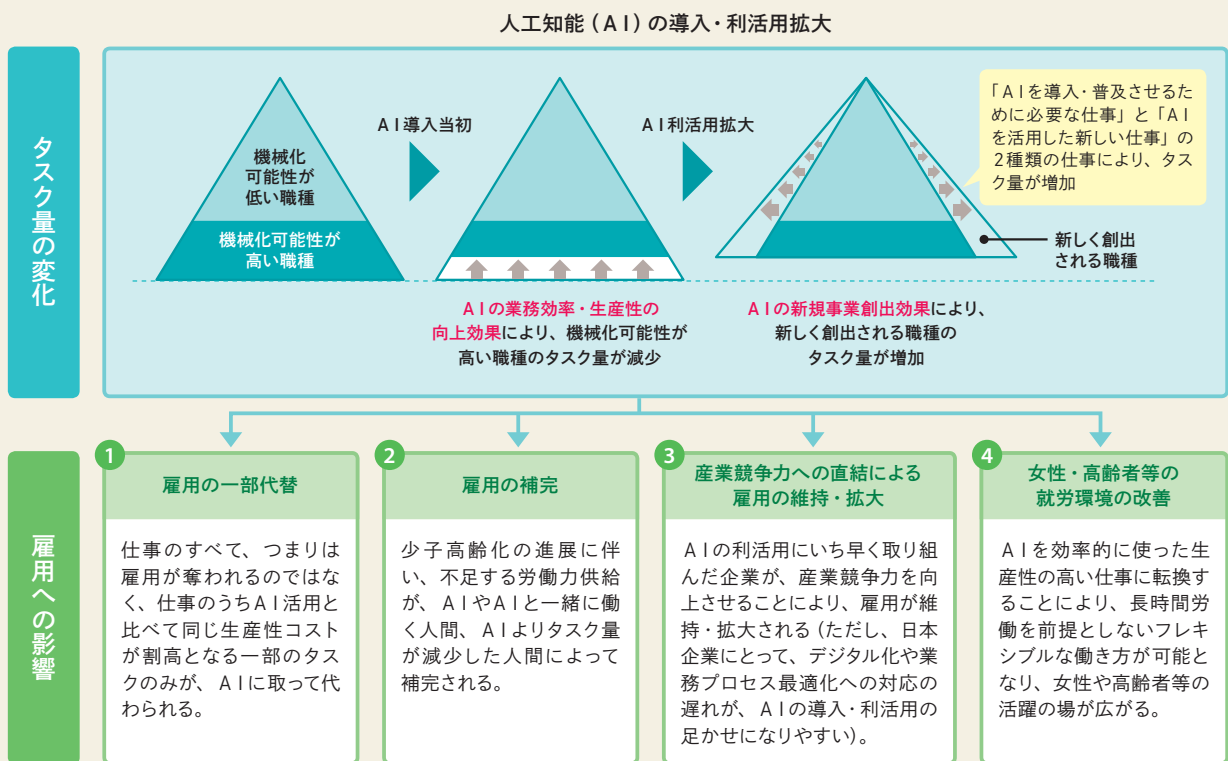
——そうすると、変化の激しい社会を生きる生徒には、どういった進路指導が必要だとお考えですか。

**和田** 4人の先生がされていた「やりたいことは何か」「自分の人生をどう使うか」を聞いて続けることが、まずは大切だと考えます。加えて、人は社会で生きていくわけですから、自分は社会にどうかかわり、貢献できるのかも考えさせたいですね。そうした場合は、次期学習指導要領の下、実施される「総合的な探究の時間」で持てるはずで。

**中原** 私は、その2つに加えて、将来を考える際には、生活の基盤を築くための家庭経済の観点も必要だと思えます。

**和田** 勤務校が長年取り組んでいる「ドリカムプラン」では、キャリアプランニングノートに「個人のやりがい」「社会的な価値」「経済的な価値」が記されており、それらをセツ

図1 人工知能（AI）導入で想定される雇用への影響



\*総務省「ICTの進歩が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究」（平成28年）を基に編集部で作成。

\*1 Arntz et al. 「The Risk of Automation for Jobs in OECD Countries A COMPARATIVE ANALYSIS」（2016年6月公表）。Frey & Osborne（2013年）が、アメリカで47%の雇用が自動化される恐れがあると発表し、議論を呼んだことに対し、その推計手法を見直し、アメリカ及び他のOECD諸国における自動化リスクの高い雇用の割合について改めて推計を行い発表した論文。



トにして将来を考えさせています。人生をかけて行いたいことで社会に貢献できれば幸せですが、その仕事では生活に必要な金銭を得られないかもしれません。その時には、生計を立てるための仕事を別に持つという判断も必要になるからです。

生徒が3つの観点で将来を考えられるようにするために、どういったことが学校や教師に求められるでしょうか。

中原 1つは、生徒が社会に触れる

場を設けることでしよう。学校での学びが社会でどう生きるのか、自分のやりたいことが社会にどう役立つのかが分かりますし、多様な価値観に出会うことで、自身の価値観と向き合う機会にもなります。

和田 自分とは違う考えや価値観を知ってこそ、自分を客観視し、本当に大切にしていることに気づく、メタ認知ができます。生徒同士が将来について話し合う場や社会人による講演会を積極的に設けるとともに、生徒が学校外で活動することを促す必要もありますね。それは、次期学習指導要領で示された「社会に開かれた教育課程」につながるものと考えます。

齊藤 僕は社会をもっと知りたいと思って、自分から積極的に学校外に出て活動していましたが、そうした人は高校には少なかったです。

和田 まずは、生徒の目が外に向くようにさせることが大事ですね。「学びは、自らつかみにいくものだ」と生徒の意識が切り替わるよう、1年生からアクティブ・ラーニングの考え方を、授業を通して浸透させることが大事だと思います。

吉田 知り合いの様子を見ると、先

生や保護者が敷いてくれたルールには疑問を持たないですし、「ルールから外れるのが悪い」という人もいるのではないかと感じています。

和田 「外に出てみよう」「殻を破ってみよう」と思うタイミングは人それぞれであり、社会に自ら目を向ける時が、大学時代でもよいと思います。ただ、生徒がいつかそう思えるよう働きかけ続けることが大切です。生徒一人ひとりの様子を見取り、そのタイミングに合わせて支援することを心がけたいです。

中原 生徒が社会に一步を踏み出せるような場があるとよいですね。例えば、短期間のインターシップなどで「社会は意外と恐くない」ことを体験させ、次に別の場を用意し、スモールステップで進める環境を整えるといったことです。学校外で活動する価値を生徒が見いだせば、あとは自ら学んでいくでしょう。先生方に求められるのは、社会が魅力的な場所だと生徒に見せることです。

### 多様な価値観に出会い、自分についてとことん考えた

——学生の皆さんは、学校外活動で

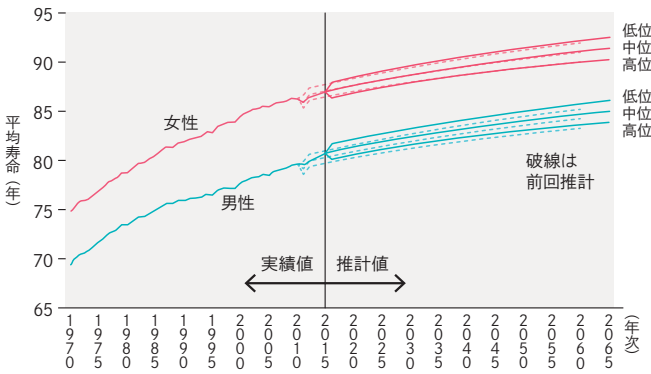
どのようなことを学びましたか。

鬼塚 僕は、学校外活動で価値観の多様さを学びました。高校の講演会で聞いた内容は、難関大学を卒業後、有名企業に就職したとか、研究者になったとか、ほとんどが成功談でした。でも、人生はそんなふうに真っ直ぐに進むものではないはず。学校外活動では、自分で面白いことを見つけて、それを自分で仕事にしてしまうような人と大勢出会いました。悩みながら回り道してきた人たちの話は、自分の進路を考える上で影響を与えてもらいました。

和田 多くの学校では、講師にお願いをして、「生徒がこんなふう成長してほしい」という教師の願いを込めた話をしてもらっていることが少なくないと思います。しかし、そうした成功談が、変化の激しい今の社会のロールモデルたり得ないこともあります。20代や30代の方に、自身の葛藤を含めたキャリアを語っていただくともよいかもしれません。

吉田 ロールモデルを見せることも大事ですが、価値観を揺さぶられるような生き方にも触れられると、自分の価値観を見つめ直すきっかけになると思います。

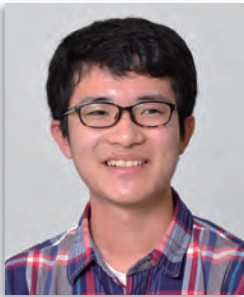
図2 平均寿命の推移：中位・高位・低位推計



2065年に男性の平均寿命は84歳、女性は91歳を超え、国民の2.5人に1人は高齢者になる。総人口は約8808万人にまで減少。

\*国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に編集部で作成。

**宇井** 話を聞いたり、体験したりするだけでなく、自分について考える時間をしっかり確保することも大事にしてほしいです。私は、和田先生がおっしゃっていた「自分の人生をどう使うか」について深く考えたこ



悩みながら回り道をしてきた人たちの出会いが、価値観は多様でよいと教えてくれました

鬼塚浩明

とで、進みたい道が見えてきました。学校の授業にそうしたことを深く考える場があり、先生が様々な形で問いかけてくれたからこそ、考えられたのだと思います。多様な価値観に出合っても、それを受け止めきれなければ、意味がなくなってしまう。すし、自分で考える時間がなければ、敷かれたレールの上を歩いていくだけになってしまうと思います。

**中野** 学校という1つのコミュニティにとどまるのではなく、高校生のうちから自ら外に出ていく意識を持つためにも、学校外活動はぜひしてほしいと思います。日本の平均寿命は、2065年に男性は約85歳、女性は約91歳と推計されています(図2)。国や企業では、定年退

**コミュニティを複数持ち、変化に対応する力をつける**

職の年齢引き上げが検討されていますし、そもそも、年齢に関係なく働けるうちは働くという価値観が根づくと考えられます。社会や景気の浮き沈みがある中で、今後、1つの組織やコミュニティに居続けることは少なくなるでしょう。

**吉田** 私は今、結婚式を企画・運営する会社でインターンとして働いていますが、その会社には私のように大学と職場だったり、ほかの仕事を持っていたり、複数のコミュニティを持つ人がかなりいます。

**和田** 私は、4年前に全世界から受講生が集まるオンライン講座を受



先生からの問いかけで立ち止まって考えたからこそ、大切にすべきことが分かりました

齊藤秀太

**他者との対話があつてこそ自分を知ることができた**

——これまでのお話から、他者と対話する経験とその振り返りが、進路を考える上で重要だと言えます。

**和田** 振り返りも、生徒が「自分の

人生をどう使うか」を考える場になることが大切です。教師には、今以上に対話力が求められます。その力をつけるためには、校内研修の充実が必要ですし、学年団を多様な経歴の教師で編成し、生徒への声かけを多面的にすることも重要でしょう。

**中原** 自分のことを自分1人で掘り下げるのは難しく、他者という相対化する存在が必要です。教師であれ友人であれ、他者からのフィードバックを得る機会を設けることは、学校としてできることの1つでしょう。例えば、本学の「ビジネス・リーダーシップ・プログラム」では、自分のアイデンティティを掘り下げる活動を行います。自分の人生を振り返り、様々な人からフィードバックを受けながら、これから何をしたいのかを考えていきます。学生の様子を見ると、かなり深く考えるようになり、その後の行動も意欲的になります。高校時代にそういった機会があってもよいと思いますし、決して早すぎることはないでしょう。

**吉田** 私は、高校時代、先生との面談で自分を振り返ることができましたが、それ以外ではフィードバックをもらう機会は少なかったように思

います。また、フィードバックをもらうとしても、それは誰からでもよいというわけではないですし、自分の心に響く言葉をかけてもらえるとも限りません。

**中原** 残念ながら、他者にわざわざ意見を言ってくれる人は、大人になればなるほど少なくなります。つまり、自らフィードバックをもらいにいく姿勢が大切であり、誰からフィードバックをもらうかも自分で見極めなければなりません。そうした力も、これからの社会では必要と言えるかもしれません。

### 進路をかせ算で考えれば道はもっと広がる

**中原** 大学教員の立場からお伝えたいのは、仕事と学部を1対1で対応させず、かけ算で学部選びを考えてほしいということです。例えば、



どこにいたとしても  
よりよい自分を目指し、いかに  
学ぶかが重要だと気づきました

宇井瑞希



夢を考え直さざるを得なかった  
「失敗」が、自分には必要だったと  
今は思えます

吉田梅乃

介護に関心がある場合、「介護福祉士の資格を取れる学部」が唯一の選択肢ではありません。介護の職場でもIT化は進んでいますし、介護用ロボットの開発、介護用品のデザイン、地域社会づくりなど、様々な側面からかかわることが出来ます。

一直線のキャリアが主流である時代は、終わりつつあります。複線的なキャリアを築くためには、かけ算の視点が欠かせません。先生方には、そうしたアドバイスができる引き出しを数多く持っていたいただきたいですし、そのためには先生方も外に出て、多様な価値観に触れることが重要で

はないでしょうか。

**和田** 私は国語科の教師ですが、最近、『平家物語』に書かれていた「諸行無常」の意味がより深く理解できたような気がしています。今後、社会の変化は一層激しく、多様になっていきます。1つの場にとどまったり、同じことを続けたりすることは、流れる時代の中では難しいものです。「諸行無常」は、変化の中でも、よりよいものを目指して、日々更新していくことではないかと思ったのです。未来を肯定的に捉え、複線的に生きていく力を育むことが、今、求められる進路指導ではないかと思うのです。

**吉田** 自分が思い描いていた成功の姿から外れて、「失敗した」と感じることもあると思います。でも、私は、成績が落ち込み、ずっと憧れていた医師への道を考え直さざるを得なかった「失敗」があったからこそ、



「やりたいことは何か」  
「自分の人生をどう使うか」を  
生徒に問い続けていきます

和田美千代

自分の人生を真剣に見つめることができず、一般的な「失敗」とされる経験も必要だと思っています。

**齊藤** 実は、僕はプロのサッカー選手を目指して、サッカーの強豪校である母校を選びました。しかし、チームメイトには全国大会で得点王になった選手がいて、実力の違いを見せつけられました。自分はサッカー選手にはなれないと思い、部を辞めました。そこから、自分がやりたいことを真剣に考えるようになり、勉強の機会を探して学校の外に出て、今、今の自分があります。

**鬼塚** 僕は、大学入学前は公衆衛生の分野を勉強したいと思っていました。ところが、1年次の基幹教育で基礎的な科目を学ぶ中で、違う領域にも関心を持ちました。大学は、いろいろな人や情報に触れて、柔軟に専門分野や将来を定めていく場だと

感じました。

**宇井** 大学に行くことが目的になっていて、志望校に合格できなかったら、「人生の失敗」と捉えるような人はまだまだ多いと思います。でも、大学生になった今、どの大学に行きたとしても、いかに学ぶかが重要なのだと実感しています。よりよいものを目指して自分を更新することは大事なことであり、高校時代にそれに気づくためにも、まずは多様な価値観に触れることの素晴らしさを知ることが必要なのだと思います。

**和田** 私たち教師の役割は、生徒が自分の人生を考え続けられるよう対



これから主流となる  
複線的なキャリアを築くためには  
かけ算の発想が必要です

中原 淳

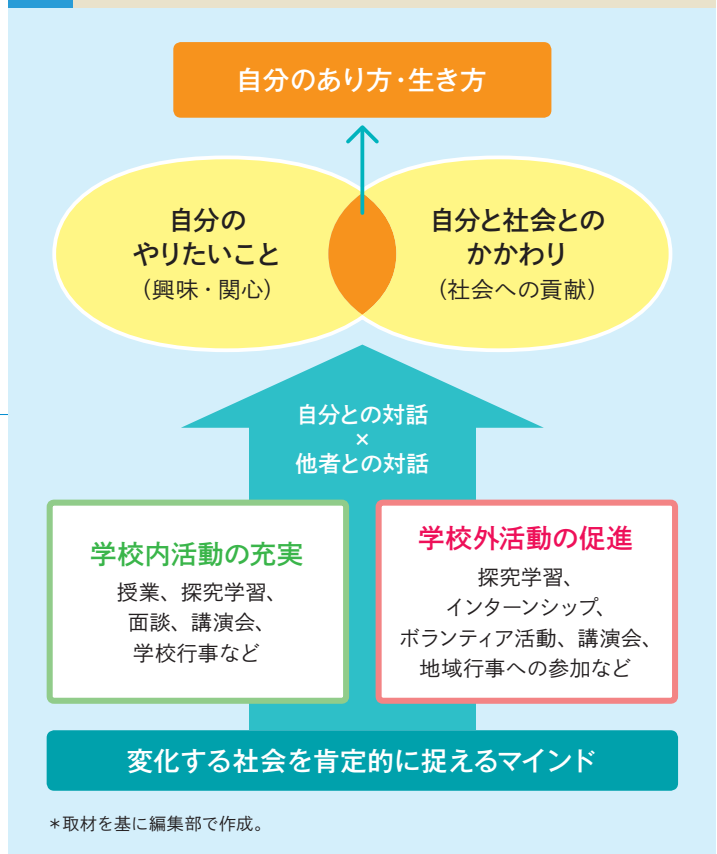
話し続けることであり、今も昔も変わらず、生徒の背中を押すことだと、改めて感じました。卒業生が「動けば心がついてくる」という言葉を残してくれました。行動するからこそ、

心が定まってくるのです。私たち教師は様々なきっかけを用意して、生徒が動き出せるよう、そっと背中を押してやれる存在でありたいと思います。

\*\*\*

12ページから、本座談会で語られた、対話や講演会、学校外活動、振り返りなどを工夫し、自身のあり方や社会とのかわりを深く考えさせる進路指導に取り組む3つの学校を紹介します。

図3 これからの進路指導のあり方



## 4人の恩師からメッセージ

教師は、どのような思いで生徒と向き合っていたのか



宇井瑞希さんの恩師

東京都・私立かえつ有明中・高校でのプロジェクト科(\*2)担当

### 進路選択の前に内なる声に向き合わせる

「選択の幅を広げるために少しでも上位の進学を」という指導が縛りになり、自らの可能性を狭めて苦しんでいる生徒が意外に多くいます。進路選択の前に内なる声とじっくり向き合う時間が必要だと思い、多様な人との対話から出てくる感情を言語化したり、大切にしている価値観をあぶり出したりしました。殻が緩んできた頃、過去・現在・未来を書くワークを行いました。宇井さんはまだ自身の未来を描くことができていませんでした。そこで、過去の経験による気づきを言語化したり、焦点をあてていなかった経験に意識を向けたり、深い内省を促しながら対話を重ねていきました。そして、大切にしたい思いが浮かび始めてきた頃に、学校外に出て人と出会い、話してくることを勧めました。宇井さんは臆することなく外に飛び出し、多様な人との交流から多くの気づきを得て、進む道を見つけてきました。今は「よりよい学びの場づくり」の仲間として大いに助けられています。



吉田梅乃さんの恩師

富山県・私立片山学園中学校・高校での3年次担任

### 本当の目標を見つけたと思えるように

進路選択では、どんな道を選んでも、それが自分にとってベストだと思えることが大切です。自分で調べ、悩み、考え抜いた生徒は、その先にあるどんな人生の岐路でも主体的に進む道を選択できますし、「納得解」が多いほど、「幸せな人生だ」と思えるからです。そうした思いから、吉田さんが「医学科志望と言いつけてきたのに、それを变えるのは挫折に思える」と打ち明けてくれた時、「挫折」ではなく、「本当にやりたいことを見つけたんだ」と思える進路選択をさせたいと考えました。気をつけたのは、私から選択肢を用意しないことです。ひたすら問い続け、聞き役・まとめ役に徹しました。「赤ちゃん」「お母さん」「福祉」は、すべて彼女から出てきたキーワードです。そうして、希望進路のイメージが持ててからは、私が言うべきことはありませんでした。学習にも前向きになり、職員室に質問に来るようになりました。成績がぐんぐん伸びていくのを見て、私は彼女の合格を確信しました。



齊藤秀太さんの恩師

広島県立広島観音高校での3年次担任

### あえて選択肢を増やして悩ませました

私は、AかBで悩む齊藤さんにあえて「CやDもある」と揺さぶりをかけ、相談に来た時には「それで君はどうしたらよいと思う？」と言って徹底的に悩ませました。授業やSHRなどでも「なぜそう考えたの？」と意識して問いかけました。彼はその都度、自己を客観的に振り返り、自分の言葉で語ることを通して、自分が決めた目標と行動を連鎖させる水準を高めていったと思います。

3年生の夏、「大学を選ぶ時に本当に大切にしたいものは何？」と問いかけたところ、自分を取り巻く環境や様々な視点から深く考えることを通して、大学進学の意味が明確になったと、自ら志望校の変更を申し出てきました。その後は、外国人観光客へのボランティア活動をしたり、自分で探したNPOを通じてカンボジアでのボランティア活動に参加したりと、行動力の高まりには目を見張るものがありました。その体験を通じて自分が得たものを報告しに来てくれた時の会話は、私の大切な宝物です。



鬼塚浩明さんの恩師

福岡県立福岡高校での2・3年次担任

### 自身に問いかけられるよう声をかけた

生徒は表面的なイメージにひかれて志望校を選ぶことがあります。そうした場合でも「あなたには合っていない」と決めつけた言い方をしないようにしています。自分で考えたり、納得したりしていなければ、志望校を変更しても意味がないと思うからです。

鬼塚さんのAO入試の出願書類を読み、本人が目指す方向と学部の内容がずれていると感じた時も、他者との対話の中で、彼自身が自分に問いかけられるよう声をかけました。「鬼塚さんは〇〇の関心が高いように思えたけれど、自分ではどう思う？」といったように、2人で「鬼塚さん」を俯瞰し、分析していったのです。出張講義に来た医師に直接相談することも勧めました。すると、その医師が公衆衛生に詳しい別の医師を紹介してくれ、専門家の視点で助言をいただき、志望校が決まりました。そこまでじっくり考えて決めた学部なので、推薦入試の志望理由書もすんなり仕上がりました。

\*2 協働するための「場の創造」と、ロジカル・クリティカル・クリエイティブシンキングをトレーニングする学校設定教科。